

学校支援担当司書が、中学生のみなさんにおすすめの本をえらびました。



のマークは気軽に読める本、



のマークは読みごたえのある本です。

夏休みにぜひ挑戦してみてください！



『風に恋う』

ぬかが みお 著 ぶんげいしゅんじゅう 文藝春秋



「好きなものを好きでいるには、**覚悟**がいる。」

憧れの人^{あこが}がコーチをする吹奏楽部^{すいそうがくぶ}に入った基^{もと}は、部内の様子がおかしいことに気づく。かつての強豪校^{きやうごう}は見る影もなく、ただ目標^{きかく}を掲げているだけ。熱心に音楽を追求する基^{もと}は、反感を買ってしまうが、だんだんと先輩たちも変わり始める。ところが、大人たちに部活をやりすぎるなど言われ…。今と将来^{はごま}の狭間で、しがきながらも音楽に青春^かを賭ける高校生たちの物語。



『疾風の女子マネ!』

まはら みと 著 小学館



マネージャーだって大変なんです。

ちやほやされたい。その上、前途有望^{ぜんとゆうぼう}な男子を捕まえられたら申し分ない。そんな不純な動機で、陸上部のマネージャーになった咲良^{さくら}。厳しい先輩マネージャーや、初めてのことづくしの毎日に戸惑いながらも、持ち前の明るさと気持ちの強さで、次第に本領^{ほんりやう}を発揮^{はつき}していく。そんな咲良も、部活動にまつわる心の傷を抱えていて…。読後感爽快^{そうかい}！ 青春部活小説。



『「空気」を読んでも従わない』

こうかみ しょうし 著 岩波書店



「生き苦しさ」との戦い方とは？

頼まれごとを断れない。周りの目が気になる。そんな経験はありませんか？ この「生き苦しさ」から楽になるためには、その正体を知る必要がある。本書では、歴史や日本と海外の考え方を比較^{ひかく}した上で、「生き苦しさ」の秘密を解き明かし、その対処方法^{しやうかい}を紹介している。自分らしくのびのびと生きるためのヒントを知れば、明日からの生活がより楽しくなるかもしれない。



『檸檬』


梶井 基次郎/著 げみ/絵 立東舎 

檸檬の存在が、私を幸福にした

私の心をおさえつけるもやもや。そんなものに始終さいなまれていたある日、八百屋に出ていた檸檬を見つける。レモンエロウの絵具をチューブから搾り出して固めたような単純な色、紡錘形の恰好の檸檬。この出会いが私を意外な方向へと導いていき…。昭和の初期に活躍した文豪、梶井基次郎の感受性豊かな名作に、平成生まれのイラストレーターが色を添えた一冊。



『地底旅行』

ジュール・ヴェルヌ/作 ひらおか あつし/訳 岩波書店 

「空想科学小説の父」と呼ばれたヴェルヌが描く、冒険小説の傑作！

高名な鉱物学者でありながら、気難しやの変人リーデンブロック教授と、助手のアクセルは、古文書に隠された「地球の中心」への道しるべを頼りに、火山の地底最奥へと向かう。手に汗握る冒険の末に二人を待ち受けていたものは、地下に広がる海と巨大な古生物たちだった…。1864年の初版以降、今なおその魅力は色あせず、新鮮な驚きをもたらしてくれる。



『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』


飯間 浩明/著 ポプラ社 

言葉も進化するのだ。ワードハンティングに出かけよう！

街を歩いて、お店の看板をカメラでカシャ！ 気になる言葉を見つけては、図書館へ行ったり、実物を買ったり、時には実験したり…と筆者は自ら調べ、確かめる。新しい国語辞典を作るために言葉を集めているのだ。また、新しい意味をもつようになった言葉には、説明を書き加えたりする。これが、国語辞典編さん者の仕事だ。なんとも興味深い、辞典作りの世界。



『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション 廁』

谷崎 潤一郎/ほか[著] 汐文社 

古典に潜んだ不真面目怪談

泉鏡花、芥川龍之介、川端康成、松谷みよ子など有名な文豪たちが、実はこんな怪談も書いていた。便所、雪隠、UNKOなど、トイレにまつわる話をこれでもかと詰め込んだ作品集。恐ろしいのか、おもしろいのか、読んだ人だけが味わうことのできる怪体験。「文豪ノ怪談ジュニア・セレクション」は他に『霊』、『呪』、『夢』などをテーマにした作品がある。

